

牛久：学校周辺に見る自然

第18号 牛久自然観察の森

2016年9月10日発行

＜ 夏の終わりに、牛久自然観察の森を歩く ～ ② ウドと虫たち ＞

9/2、夏の終わりに歩いた牛久自然観察の森、今回はウドの花とそこに集まる虫たちです。



ウド(左)とその花序(かじょ:花の集まり)。ウドは先の方に両性花の集まりを、もとの方に雄花の集まりをつける(右)。

「タヌキの林」に入ると、ウドの花が咲いていました。「ウドの大木」ということわざを知っていますか？ウドの茎は木のように太く高く伸びるけど柔らかくて用材としては使えないことから、「体ばかり大きくて役に立たない人」のことを例えてそう言います。

球状の花の集まりをたくさんつけますが、先の方には雄しべも雌しべもある両性花の集まりを、もとの方には雄しべだけの雄花の集まりをつけます。そして同じウコギ科の仲間のヤツデと同様、両性花では先に雄しべが成熟して花粉を飛ばし、その後雌しべが成熟します(27年度15号参考)。蜜や花粉を食べて花粉を運ぶのはハナアブやハエの仲間が多いですが、ハチの仲間も訪れます。【理科支援員:宮内】



ウドの蜜や花粉をなめるミドリバエ(左)と、ホバリングしながら近づき(中)、蜜や花粉をなめるホソヒラタアブ(右)。



ウドの花蜜を吸う、キンケハラナガツチバチのオス。